

厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）  
分担研究報告書

造血幹細胞移植に用いる細胞の安全な処理・保存・品質管理体制の確立に関する研究

## 末梢血造血幹細胞採取における臨床多施設共同研究

研究分担者	大戸 斉	福島県立医科大学	輸血移植免疫学講座	教授
研究協力者	池田和彦	福島県立医科大学	輸血移植免疫学、循環器血液内科学	
同	室井一男	自治医科大学	輸血・細胞移植部	教授
同	藤原慎一郎	自治医科大学	内科学講座血液学	講師
同	藤原実名美	東北大学	輸血・細胞治療部	准教授
同	藤盛好啓	兵庫医大	輸血・細胞治療学	教授

### 研究要旨

造血幹細胞移植において細胞の採取から輸注まで安全に効率よく行うことを最終目標とする。このために、末梢血造血幹細胞採取機種種の Spectra-Optia と Spectra-Auto の比較検討を多施設共同で行っている。順調にデータを蓄積中であり、今後目標症例数に達する見込であるため、詳細な解析を予定している。

#### A．研究目的

末梢血造血幹細胞採取に関する多施設共同前向き研究においては、幹細胞採取機種種として従来汎用されている Spectra-Auto と最近上市された Spectra-Optia の特性を比較し、安全で効率的な採取に役立てる。

#### B．研究方法

幹細胞採取に使用する Spectra-Auto と Spectra-Optia を交互に順番に割り付け、採取効率や採取中の有害事象頻度などを比較する。

(倫理面への配慮)

日本輸血細胞治療学会、事務局の福島医大ならびに各参加施設において倫理委員会の承認を得て研究を遂行している。

#### C．研究結果

本研究（末梢血造血幹細胞採取に関する研究）についてはすでに目標症例数の 9 割以上のデータを集積している。2015 年 5 月から 7 月頃までに目標症例数(200 例)に到達する見込である。その後詳細な統計解析を予定している。

#### D．考察

今後予定症例数に達した時点で解析・考察を行う。

#### E．結論

上に示したとおり、現在症例を順調に蓄積中であるが、データに関しては未解析である。なお、予定症例数に達した段階で早急にデータ解析の上、論文化する。

F . 健康危険情報

主任研究者報告書に記載

G . 研究発表

1. 論文発表  
準備中

2. 学会発表  
・末梢血造血幹細胞採取に関する他施設共同前向き研究：Spectra-AutoとSpectra-Optiaの比較  
(日本輸血細胞治療学会会誌,2014年,第6

0巻第2号,P404)

H . 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし

2. 実用新案登録  
該当なし

3. その他  
特になし